文化

「ムスビ」と「キ」と「ヒ」と

笹谷良造の民俗学（その一）

なら民俗通信 256

西村　博美

▼折口学の継承者、笹谷良造

折口民俗学の正統を継ぎ、それを発展しようとした一人に笹谷良造がいる。小稿は、折口学の「正統」とその「継承」とは何かということについて、笹谷を通して、探ろうとするものである。

笹谷は、「古代民俗基礎論」と副題のある『神々の世界』（桜楓社、一九六九年）のはじめの方で、ムスビの神の信仰は見逃がされやすいが、折口名彙（い）として名高い「まれびと」や「常世（とこよ）」とともに、古代信仰を知るうえで不可欠なものだと言う。

笹谷の師であった折口信夫は、「日本文学の発生論」（昭和二十二年）の中で「ムスビの神」について触れているが、笹谷もまた「ムスビの信仰」を同著の冒頭に置く。

笹谷はこの中で、もう一つ注目すべき発言を行っている。折口論に対する柳田国男の批判について、「（折口の言うように）ムスビの信仰がそれ程重要なものとすれば、必ず近代民俗の中に残存している筈（はず）だ」として柳田は賛意を示さなかったと記している（折口との対談「民俗学について」）。

とすれば、「このわたしが折口のあとを」と言わないまでも笹谷は、「必ずや何等かの形で民間にも残存しているに違いない（略）ムスビの信仰を探っていきたい」と述べている。

また、笹谷が「（折口は）日本文学の発生を説くに急なる余り、他には及ばれなかった。しかし、これは、もっと延長して（ムスビの信仰論について）広く考察を加えるべきであった」とまで、言い切っているのをみても、折口学の継承について、笹谷の大きな意気込みのようなものをうかがうことができる。

▼「ムスビの信仰」とは何か

わが国の創世神話は、二つの神（イザナギ・イザナミ）によって万物一切が作り出されたとされるが、ここに働くのがほかならぬ「ムスビの力」であると古代の人々は信じていたらしい。ムスビの力、いわばその霊力の神格化されたものが「産霊（ムスビ）」、すなわちタカムスビ・カミムスビの神である。

笹谷良造によれば、ムスブという語の原形は「ム（生ム）」であり、ここから出た「苔ムス・虫（ムシ）、蒸（ム）ス」など一連の語にも「発生・出産」の意を含んでいると言う。

笹谷は、また「ムス」という語から「ムスブ（結ブ）／ウブギ（初着）／ウブヤ（産屋）／オボコ（幼児）／ウヒ（幼々し）」など多くの語が分化していったのだと説いている。

笹谷は、亡くなる前年の（昭和四十三年）講演で、「赤ん坊の宮参りにはウブスナ様に参ります。ウブスはムスブと同じことです。子供の霊は弱いので、ウブスナ様にムスビこめてもらいます。すると、子供はヒダツと言います。これは、（ムスビの）力をもつことです」とも語っている（「縄の文化」）。

▼オムツもフンドシも相撲のミツも

「ムスビの力は他にも、私たちの生活の身近なところに多くのものを見つけることができるのだ」と笹谷は言う。笹谷ふうに言えば、これこそ「民間に残存しているムスビ信仰のかたち」である。二つ三つを笹谷説から取り上げてみよう。

赤ちゃんのオシメ（関西ではオムツ）を古くはムツキという。これは、ムスギ（産ス着）／ウブギ（産ブ着）であって、幼く弱い者を包んで養い育てるときにも働くのが、ムスビの力なのだ。

また、古代から信じられてきた人間の霊は、ヒともフとも呼ばれるが、これが抜けてしまうとフ抜ケになるし、ヒの力がたるんだのがヒダルシである。

つい最近の、少なくとも私たちの祖父の世代までの男性の下着に「フンドシ」なるものがあった。それは、わが身に結び（イハヒ）つけられたフがたやすく逃げ出すことのないようフを持タス」呪力（じゅりょく）のある紐（ひも）、すなわちムスビのヒモである。

そして、もうひとつ。相撲では、フンドシ（マハシ）の後ろの結び目をミツと言い、前の部分をマエミツと言う。大相撲中継のアナウンサーが「○○がマエミツを取りました」と言っているあれだ。

笹谷は、そこでさらにこんなふうに言う。「ひょっとしたら相撲は敵を倒すことによって、勝負がきまるのではなく、『結（ミ）ッを取る』こと、すなわち（フンドシの）結び目を解くことによって、相手の霊力を退散せしめることができたかもしれぬ」

笹谷と同じ折口信夫の門にあった梅木春和は、笹谷には「民俗語彙に関する独自の感覚と見解に裏打ちされた発想法」があったことを指摘している。民俗として伝承されてきた「ムスビの信仰」を身近な生活の基盤から見い出そうとした笹谷から、私たちは今も多くを学ぶことがあるのではないだろうか。

（詩人・奈良民俗文化研究所研究員）

笹谷良造（1901～1969年）民俗学・国文学者

▼訂正　前回の小稿（255回＝9月2日付6面）で、水木直箭の大学卒業年を「昭和十年」としたのは、「大正十年」の誤りでした。訂正します。

身近な生活基盤に残存

笹谷良造